

**もくじ**

P 1、2 支援員さんの声

P 2 植物の新しい分類体系について

P 3 活動団体報告（山口カブトガニ  
研究懇話会、研修会案内）

P 4 「榎野川河口域」における自然再生の取り組み（自然保護課）

## 支援員さんの声

支援員研修会で感じたことや日々の活動の中での思いなどをお寄せいただきました。

### 「喜ばれました」

支援員になって3年が経過しましたが、あらためて始めた時の気持ちを思い出しながら試行錯誤しているところです。私は月に数日、錦帯橋で観光ガイドのボランティアをしています。5月後半から6月前半まで、吉香公園では花菖蒲が見頃で、全国からたくさん人が訪れます。ある日、ガイド仲間からのメールで「モリアオガエルの卵が公園内で見られる」との情報があり、早速、紅葉谷公園内を観察するといくつかの卵を発見しました。ガイド協会会長から、「産卵場所に案内して説明したらとても喜ばれました。これもおもてなしの心です」とのメールがあり、花菖蒲を見に来られた婦人グループを産卵場所に案内しました。帰り際に、「花菖蒲を見に来て珍しいものも見る事ができてとても良い思い出ができました。ありがとう」と言われました。小さな話ですが、今後ガイドを続けていくうえで貴重な体験ができたと思っています。

恩田 浩幸（岩国市在住）



### 「山口県希少野生動植物種保護支援員の活動に参加して」

私が、支援員になって、かれこれ5、6年が経過しました。

これまで研修会等を通じ、大変興味深く得難い経験をさせていただきました。植物や、動物に詳しい研究者は多くおられ、この年でも知らないことはいくらかあると感じています。岩国市での研修会で知り合いになった、動物に寄生する冬虫夏草の研究者に数多くの標本を見せていただき、まるで子供時代に戻ったような驚きと喜びを味わいました。また、周南市中須北地区の休耕田で開催された水辺の動物観察会で、カエル博士や、昆虫・小動物大好き少年達と出会いました。ツチガエル（俗称「いぼ蛙」といい、素手で触るのは私も苦手である。）を平然と握りこむ蛙好きの少年たちと一緒に、独特の臭いがあり足が沈み込む泥田を素足で愉快地駆け巡りました。また、身近で楽しい自然を子供たちに伝えたいという中洲北地区の有志の方々の方々の気持ちにも深く賛同しました。

松村 誠（周南市在住）



これ以降も、様々な行事で、「好きなものは好き」と目を輝かす自然が好きな「理科少年」達にたびたび出会いますが、「科学に対し少年たちが興味をなくせば、日本国の将来はない」と思っています。

### 「毎年、そこで出会えること」

佐伯 英子（宇部市在住）

支援員になって、少しでも動植物への知識を深めるようにと年に1～2回研修会に参加しています。3年前と昨年の秋に「竜王山の自然観察会」に参加しました。竜王山では、いろいろな珍しい動植物が見られ、四季を通じて観察や保護活動をしておられます。私は、隣の町に住んでいながら、アサギマダラが来ることも知らず、3年前に初めてアサギマダラを見ました。旅する蝶という話は聞いていましたが、たくさんアサギマダラが人の近くを（本当はヒヨドリバナの近くです）飛んでいるのを見て感動しました。たくさんアサギマ

ダラが来るように「アサギマダラおいでませ作戦」を実施されており、モリアザミなどの植物の群落を守る活動もされているそうです。

昨年の研修会では、天候の影響かアサギマダラは少なかったのですが、マーキングされたものを1羽見つけることができました。どういう風にマーキングするのかが分かりましたので、アサギマダラがどこを通過してどこまで行くのかははっきりわかるのが楽しみです。

自然をそのままにしておく、繁殖力の強いものが数を増やし、珍しいものや弱いものはどんどん減っていきます。貴重なものをどう守るか。人の手を入れる所とそのままにしておく所の見極めが大切だなあいつも思っています。でも、アサギマダラのように毎年ここに行けば出会えるというのが嬉しいですね。



## 「森でセラピーしちよる？」

中村 義博（山口市在住）

私は、支援員になって7年になります。最初のきっかけは、仕事柄（造園業、樹木医）、樹木と向き合うことが多く、植物に興味があったので、少しでも役立つ情報があればという下心からでした。

樹木医とは、弱った木を元気に回復させることが使命ですが、失敗の連続で、木を植えても枯らしてしまうことも多々あります。そのたびに、反省し、落ち込んでしまいます。

そんな時、徳地に森林セラピー基地があり、「森の案内人」のことを知りました。「そうだ、樹木を保護する前に、それを施術する自分をもっと元気にならなくちゃ。」との思いで参加しましたが、今では、「森の案内人」の活動が、明日へのリフレッシュ効果を創出してくれています。

皆さんは、山登りを一度や二度は、経験されていると思いますが、きつい思いをして、ようやく山頂に着いた時の爽快感、何とも言えない心地よさを感じます。

また、森に入ると、いろいろな香りを感じることがありますが、それは、植物が傷つけられたときに出す揮発性の物質「フィトンチッド」というものです。ほかにも森の中には、五感に心地よい魅力があふれているので、自然豊かな森林に入って、目を閉じて、深呼吸してみてください。

自然を構成している動植物が多種多様であればあるほど、五感で味わえる魅力が多くなります。皆さんの住んでいる所の近くにも、自然豊かな場所はたくさんあると思います。家の裏山でも構いません。自然に向き合い、セラピーしてみてください。こういった環境を子供たちにもたくさん味わってほしいものです。



## ＜植物の新しい分類体系について＞

環境学習推進センター

植物の分類は、今まで花や葉や茎などの形態を基準にし、進化の道筋を考慮して系統だったものになっています。図鑑や目録もこれを元に作成されたものがほとんどです。しかし、科学技術の進歩とともに遺伝子解析が進み、その解析結果を元にした新しい分類が確立されつつあり、世界ではすでに多くの論文においてこの新しい分類が主流になっています。日本においても、近い将来、主流になることは間違いないと思われます。

合弁花と離弁花の区別をしないこと、従来からなじんできた「科」の分割や統合など大きな変化があります。最新版の分類で「ユリ科」を例にとると、ササユリはそのまま「ユリ科」ですが、ニラは別の科である「ヒガンバナ科」に移り、ヤマノイモは「ヤマノイモ科」という新しい科になります。希少植物種を後世に残す活動を後輩に託していくためにも、調査するデータを新しい分類体系へ移行しておくことの意義は大きいと考えます。

参考までに新しい分類体系についての図書を紹介しておきます。

※「維管束植物分類表」 著者：米倉浩司 発行所：北隆館

# 活動団体報告

## 「カブトガニがいなくなってしまうように」

山口カブトガニ研究懇話会

代表 原田 直宏

一人で海岸・干潟を歩きカブトガニの調査・観察をしていると、このままでは絶滅の記録を取っていることになるのではないかという危惧を抱き始め、調査を初めてから6年目の1997年11月に、本会を立ち上げました。個人の活動では限界があり、同志を募ることで保護団体として情報を発信していこうと考え、設立総会を持ち、NHKでも放送されました。

保護活動のためには、まず、山口県内のカブトガニの現状を把握することが必要です。これまで個人で行っていた調査を現在も継続しており、産卵に来るつがい数の定点調査は今年で24年目になります。干潟での幼生調査もきっと役に立つ時が来ると思い記録をとり続けています。

次に、多くの人にカブトガニのことと現在の生息状況を知ってもらうことが必要です。毎年千鳥浜（下関市）と山口湾で行っている産卵観察会、幼生観察会では、カブトガニを初めて見る子供たちから、昔はたくさんいたことを知っておられる方々まで多く参加していただき、間近で見たり直接触れたりしてもらっています。参加された方々に現状を知っていただき、このカブトガニをわれわれが滅ぼしていいのかと考えてもらう機会になればと思っています。

また、山口カブトガニ研究懇話会のホームページで、基本的事項、活動報告、トピック、観察会の案内などを発信すると同時に、いろいろな場で話をさせていただく機会をもっています。

さらに、多くの方にカブトガニを見ていただけるように、2013年4月に家の納屋の一部を改装して、「山口カブトガニミニ展示館」を開設しました。年中開館しており、説明、写真、そして飼育している幼生や成体を見て頂けます。夏休みには自由研究のために訪れる子供たちもいますし、子供に限らずどなたでも気軽においでいただきたいと思っています。

最後に、山口県のカブトガニは、今すぐにいなくなってしまうという状況ではないと思っていますが、本州ではほとんど最後と言ってもいい繁殖地であり、この環境はなんとか保っていかなければならないと思っています。

山口カブトガニ研究懇話会ホームページ <http://www.5c.biglobe.ne.jp/~h-kabu>



### 〈今年度の支援員研修会の予定〉（詳細は開催案内を参照）

#### ○第1回 ニジガハマギクと峨嵋山樹林

日時：平成28年11月13日（日） 9:30～15:00

場所：浅江コミュニティセンター（光市浅江） 峨嵋山自然研究路（光市室積）

内容：講 義・・・ギフチョウの保護活動、ニジガハマギクの保護・増殖活動

観察会・・・峨嵋山樹林（国指定天然記念物の照葉樹林）

※第2回は12月以降に実施予定。決定次第ご案内します。

# 「榎野川河口域」における自然再生の取り組み

榎野川河口域・干潟自然再生協議会（事務局：自然保護課）

山口市の榎野川河口域は、かつてはアサリやクルマエビなどの好漁場でしたが、泥質干潟の拡大やカキ殻の堆積などの環境変化により、1985年頃から漁獲量は年々減少を始め、2001年には5分の1程度にまで落ち込んでいました。なかでもアサリは壊滅状態となり、1975年には653トンあった山口市の漁獲量も1991年以降は0～5トンとほとんど漁獲されていませんでした。

このような状況から、2003年に河川流域の関係者が集まり、榎野川河口域の自然再生に向けた活動を始め、翌年には「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」を設立し、様々な立場の関係者が連携して、それぞれの役割に応じた取組を進めていく体制を構築しました。

これまでの協議会の取組としては、干潟再生に係る実証試験等を始め、ボランティアの方々の協力による干潟耕運、上流域での森林整備、河川清掃など多岐に渡っていますが、当初の取組から13年が経過した現在では、絶滅危惧種であるカブトガニの幼生確認数が増加傾向を示すとともに、約20年ぶりにアサリが漁獲されるなど徐々に自然再生の兆しが見えています。



【AQUA SOCIAL FES!! 2016（住民参加による干潟耕運）】



▲干潟耕運作業

▲生き物観察会

▲潮干狩り

※2016年には200人を超えるボランティアの方の参加がありました。

## ■榎野川河口域・干潟自然再生協議会

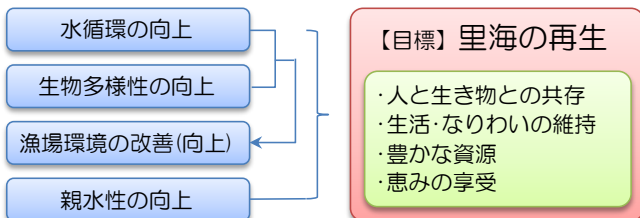
【設立】2004年8月1日

【会長】山口大学名誉教授 浮田正夫

【構成】地域住民、NPO団体、漁協、森林組合、学識者、行政機関等（全58名）

【事務局】山口県環境生活部自然保護課

〈榎野河口干潟等の再生の方向性〉



## 【2016年度の主な取組】

時期	内 容
4月	○住民参加による干潟耕運（耕運・被覆網設置）
6月	○四季の森整備<仁保自治会>
7月	○ナルトビエイ駆除<榎野川流域活性化交流会> ○ふしの川水系クリーンキャンペーン/榎野川中流<榎野川漁協・山口市>
8月	○カブトガニ幼生生息調査/南潟・長浜<カブトガニワーキンググループ>
10月	○河川清掃/榎野川中流<榎野川流域活性化交流会> ○あゆ産卵場造成/榎野川中流<榎野川漁協>
3月	○ヨシ焼き/きらら浜自然観察公園内<きらら浜自然観察公園ヨシ焼き協議会(NPO法人野鳥やまぐち)> ○宇津木の里森林整備/宇津木の里<榎野川流域活性化交流会・宇津木の里>

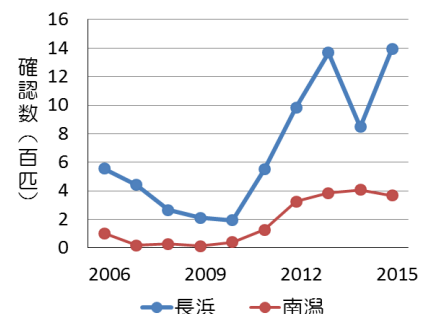
## ■カブトガニ幼生生息調査の概要

カブトガニ生息数の増加は、自然環境の再生を示すひとつの指標となります。このため協議会では、榎野川河口内の干潟に2カ所の調査地（長浜・南潟）を設定し、毎年8月頃にカブトガニ幼生生息調査を実施しています。

調査では、原田直宏さん（山口カブトガニ研究懇話会 代表）の指導の下、ボランティアの方々が干潟を約1km歩き、見つけたカブトガニの数などを計測しています。



## 【カブトガニ幼生確認数の推移】



●榎野川河口域・干潟自然再生協議会のこれまでの活動状況や今後の計画などの詳細は、協議会ホームページをご覧ください。【URL】<http://eco.pref.yamaguchi.jp/fushino/index.html>

